

132 家書絶不傳

○ ○ ● ● ◎

133 帶寬泣紫毀

● ○ ● ● ● ●

134 鏡照歎華巔

● ● ● ○ ○ ● ◎

135 旅思排雲雁

● ● ○ ○ ○ ●

136 寒吟抱樸蟬

○ ○ ● ● ● ◎

※脚韻は下平声「先」韻、韻字は「躔、傳、巔、蟬」である。

\*「華」は古典文学大系本では「花」とするが、ここでは採らない。

訓読

129 灰飛びて律候を推す

130 斗建して星躔を指す

131 世路間たりて彌 險し

132 家書絶えて傳はらず

133 帶寬びて紫の毀るるに泣く

134 鏡照して華巔を歎く

135 旅の思ひは雲を排する雁

136 寒吟は樸を抱く蟬

口語訳